

いちのせき

## 農委だより

第17号

2011

12



## 藤沢町と合併により 新たな体制へ

引継書の引渡を行う一関市農業委員会会長（左）と藤沢町農業委員会会長（右）

歴史に残る平成23年もあと僅かになりましたが、今年私たちは歴史的な大惨事に立ち会いました。当市は東日本大震災により家屋倒壊や農地・農業用施設等に大きな被害を受け、市や関係機関、市民の懸命な努力によって何とか復旧は進んでいます。復興となるとまだまだ険しい道程が続いております。

特に農家にとって大きな問題は福島原発事故による放射能汚染であり、農畜産物への汚染は風評被害もあって危機的状況にあります。放射能によるすべての被害について東電と政府は万全な補償措置を講じる責任があります。一関市農業委員会は市に対し震災対策の緊急要請や建議をしたところですが、ほかに岩手県農業会議や県下農業委員会と一緒に国や県に対し幾度も要請活動を展開してきたところです。

今年、震災や放射能問題で逆風が吹き荒れましたがもう一つの課題はTPPです。我が国の農業に壊滅的な打撃を与えるものであり一貫して反対運動をしてきました。震災で食糧の大切さを、放射能では食の安全が身に染みたまはずです。最も大切なものを外国にゆだねて良いのか、「国破れ山河不在のTPP」と農業川柳が詠んでいます。私たちはTPPが日本農業に影響しないように消費者と一緒に反対していかねばならないと考えます。

この状況下「両弊は一つ」の思いが叶い、さる9月26日に晴れて藤沢町と合併となりました。藤沢町農業委員会 小野寺文人会長より引継ぎを受け、新たな体制がスタートしました。一関市総合計画に「人と人、地域と地域が結び合い 未来輝く いちのせき」とありますが、合併後の未来像がこの言葉に凝縮されています。合併してよかったと思う地域づくりは住民の努力の中にあります。東北の中心という地理的條件を生かし「中東北の拠点」を一緒に目指したいと思います。

一関市農業委員会会長

千葉 哲男

### 新任農業委員の紹介

合併により新たに一関市の農業委員となった藤沢地域の委員を紹介いたします。



佐々木 栄一  
56才  
藤沢町黄海  
農地専門委員会



千葉 正紀  
62才  
藤沢町保呂羽  
農政専門委員会



千葉 ひろあき  
63才  
藤沢町徳田  
農地専門委員会



伊藤 勉  
61才  
藤沢町黄海  
農政専門委員会



小野寺 文人  
62才  
藤沢町藤沢  
運営委員  
農政専門委員会

11月1日、農業委員会から千葉哲男会長、千葉功会長職務代理者、伊藤公夫農政専門委員長、畠山比佐夫同副委員長、南浦秀山農地専門委員長、沼倉喜美夫同副委員長が、市側は市長、農林部長が出席し、「平成23年度一関市の農業・農村振興施策に関する建議書」を会長から市長に提出しました。  
本年度の建議事項は、東日本大震災の復旧・復興対策や福島第一原発事故による放射能汚染対策、担い手の確保・育成対策と経営安定対策、国県に対する要望事項等の7項目からなります。



### 農業振興施策の充実へ 建議書を市長へ提出

提出にあたり会長からは、放射能汚染が深刻化してきており早急な対応策の実施を、さらにTPP交渉参加問題では現状では農家に壊滅的な打撃を与えることから参加しないよう国等に要望するよう要請しました。

市長は、放射能汚染対策は子供の被曝対策を優先にきめ細かな調査を行い、除染を含めて対応していく。汚染された牧草等の仮置き場の問題も住民理解を得ながら早急に進めていきたい。TPPの問題については地方の実情を機会を捉えて要望していきたいとの姿勢を示しました。

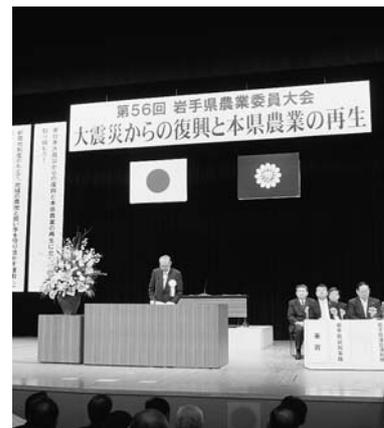
### 第56回 岩手県農業委員大会開催

11月11日、都南文化会館にて、第56回岩手県農業委員大会が開催され、会長、農地専門委員と表彰者が参加しました。当市の表彰者は、「永年勤続農業委員表彰」千葉哲男会長、千葉康生委員、「農業委員会等活動表彰」(活動記録部門)千葉哲男会長、同(全国農業新聞部門)橋階敏男委員で長年の功績と活動が表彰されました。



地域の農業者を紹介します  
藤沢町増沢の千葉雅啓さん

### 元気で 地域の担い手



大会は、「農業政策の充実に関する要請決議」「農業委員活動の強化に関する申し合わせ決議」「TPP交渉に関する特別決議」の議案を決議し、大会宣言を採択しました。

千葉さんは、ピーマン55a（ハウス50a・20棟、露地5a）を、JAいわい東のグリーンヘルパー4人を雇用し年間約40t生産し農協を通じて出荷しています。

ピーマン栽培は20年前に千葉さんの父親が5aから栽培を始め20aまで拡大したが高齢等で作業が難しくなってきたことから、9年前に千葉さんが会社を退職し栽培を継いでいます。当時は家族だけの作業で大変だったことから、雇用を入れての経営にするために現在の規模に拡大しています。

「土づくりと常に作物を観察し早めに対応して手当することが大切で、雇用を入れることで経費は増加するが、無理なく計画的な作業ができ、目が行き届くようになり収量も安定してきている。今後、若い人がピーマン栽培に参入してほしい」と語っていました。

### 巖美町舟卸の菅原慎也さん

菅原さんは、一昨年会社を退職後、農業に興味を持ち、農業短期大学の講座を受講した後、昨年からは就農しています。現在、水稲

1.8ha、なす17aを栽培し約2500箱（1箱5kg）を出荷しています。

なすは父親の友人が栽培をしていたことから、JAいわて南なす部会の指導を受け、土壌診断による肥料設計や部会のマニュアルに沿って露地栽培に取り組み、今年第22回なす立毛共励会、トンネルの部で最優秀賞を受賞しています。今年は9月の雨と台風の後には防除のタイミングを逸して病気が発生し収量が多少減少したとのこと。

「病気の発生を経験し絶えず気配りすることの大切さを実感した。収穫の最盛期は大変だったが、箱詰めして出荷する瞬間に農業の喜びを感じる。来年はなすに加えて長ねぎを30a栽培したい」と意気込みを語っていました。



## 都市と農村交流 舞川いきいき楽農隊

舞川14区の住民と都市住民が農作業を通じて交流を深める「第7回農村まるごとボランティアin一関」が11月4日〜6日の3日間開催され、参加者（43名）による「舞川いきいき楽農隊」が高齢化等で手入れされていない森林や竹林の整備を行いました。



初日は都市の参加者が巖美町の古民家に宿泊し、翌日は、14区の農家6軒に分かれて民泊しながら、なたやチェーンソーを使い農地周辺の森林の除伐作業に共に汗を流し交流の絆を深めました。  
この活動は、当初一関市の森林

ボランティアが終了した後、更に交流したいとの思いから平成18年から始まり、今回は関東地区や仙台市、釜石市などから17名が参加しています。参加者の多くはリーダーで毎年の交流を楽しみにしており、口コミで新たな仲間が増えていきます。

この活動のコーディネーターの吉田剛さんは「イベント的な活動ではなく、参加者同士が一体となって、家族や親類のように自然体で絆を深めていけるように今後も続けて行きたい」と語っていました。



## 農地賃借料情報

地域における賃借料の目安となるよう農地賃借料情報を提供します。

平成22年1月から同年12月（旧藤沢町は平成22年度分で集計）までに締結（公告）された賃借料における賃借料水準（10aあたり）は、以下のとおりとなっております。

### 1 田（水稻）の部（10aあたり）

	平均額	最高額	最低額	データ数
一関・花泉地域	10,595円	18,300円	3,480円	1,226筆
大東・千厩・東山・室根・川崎地域	6,250円	11,000円	1,983円	176筆
藤沢町藤沢地域	7,257円	15,000円	2,871円	87筆
藤沢町黄海地域	14,021円	23,000円	4,762円	188筆
藤沢町八沢地域	7,359円	15,142円	2,930円	123筆
藤沢町保呂羽・大籠地域	9,355円	17,000円	3,156円	60筆

### 2 畑の部（10aあたり）

	平均額	最高額	最低額	データ数
一関・花泉地域	5,642円	7,000円	3,000円	53筆
大東・千厩・東山・室根・川崎地域	4,256円	7,346円	1,799円	38筆
藤沢町藤沢地域	4,417円	10,000円	1,866円	48筆
藤沢町黄海地域	4,426円	7,915円	1,841円	480筆
藤沢町八沢地域	7,049円	10,000円	2,407円	80筆
藤沢町保呂羽・大籠地域	6,444円	10,526円	2,884円	31筆

※今回公表する賃借料情報は実際の契約に参考としていただくために、それぞれの地域ごとに契約額が極端に高額、低額（平均値の1.7倍以上および0.3倍以下のもの）な実例をあらかじめ削除した後、全体集計しております。

**農業委員会委員  
選挙人名簿記載申請書の  
提出を**

登載申請書は農業委員の選挙人名簿作成の基礎資料となる大切な書類です。次の方は1月10日（火）までに申請書を提出してください。

対象Ⅱ平成24年1月1日現在市内に住所のある20歳以上（平成4年4月1日以前に生れた方）で次の①～③のいずれかに該当する方。

- ① 10 a以上の農地の耕作業務を営んでいる方（経営者）。
- ② 前記①に該当する方の同居の親族またはその配偶者で年間でおおむね60日以上耕作に従事する方。
- ③ 10 a以上の農地の耕作業務を営む農業生産法人の組合員、社員または株主で年間でおおむね60日以上耕作に従事する方。

※申請書は12月中旬に農林連絡員（農家組合長）を通じて配布する予定です。組合未加入者の方には直接郵送します。

**【お問い合わせ】** 一関市農業委員会  
 ☎ 21-8692

## 編集後記

今年は東日本大震災に始まり放射能汚染など大変な一年でした。被災された皆様に心からお見舞い申し上げますとともに一日も早い復興をお祈り申し上げます。

原発事故による放射能汚染の影響で農畜産物の安全・安心に対する不安感が広がり風評被害の進行による価格の下落が経営を圧迫し先行きが不安です。さらに農業が壊滅するかのごとくTPP議論も拍車をかけ、政府は参加に向けた協議に入るとの姿勢だが、我々生産者は断固反対です。中山間地域の耕作放棄地が拡大すれば、環境が悪化し人口が減り山林、河川が管理されなくなり地域荒廃にもつながりかねません。

農業委員会は地域農業が産業として一途にできる活路を見出すための情報や話題等の提供発信ができればと思いますので、農委だよりをよろしく願います。（千葉綾雄）

農委だより編集委員会  
 編集委員長 小野寺弘行  
 副編集委員長 伊藤守人  
 編集委員 千葉綾雄、伊藤 東、齋藤ゆみ、千葉正紀、村上真喜雄、畠山養喜